

3 学校体育活動の工夫・改善「運動機会の確保」「個に応じた指導の工夫」

「運動の日常化」をねらった外遊びの充実大なわとび「八の字とび」の実践

設定時間 昼休みの時間

対象児童 全校児童を12のチームに編成して実施



活動のポイント

- ・競技用車いすを利用することにより、運動しやすくなり、縄をくぐりぬけることができるようになった。
- ・児童がルールを考えて、車いすに乗っている児童がくぐりぬけることができたら回数をカウントすることにした。

4 パラスポーツ体験用具の貸出し（2週間）（令和6年度も継続）

○目的

県内におけるインクルーシブ体育授業の充実を目的に、パラスポーツ体験用具の貸出しをする。

○貸出期間

貸出日・返却日を含めて2週間以内とする。

※令和5年11月5日より「競技用車いす」を追加して貸出ししている。

○令和5年度の貸出し状況について

校種	貸出し回数
幼稚園・子ども園	2
小学校	23
中学校	8
高等学校	5
その他教育機関	3

※ 令和6年1月15日現在の状況

パラスポーツ
体験用具貸出し
(ホームページ)



ポッチャボール	ゴールボール	ブラインドサッカーボール	シットイングバレーボール	競技用車いす
ポッチャシート	ロトロサウンドボール	アイシェード・アイマスク	シットイングバレーボールネット	

※ 香川県教育委員会事務局保健体育課で貸出中

令和5年度 スポーツ庁委託事業

令和の日本型学校体育構築支援事業

障害の有無にかかわらず 共に学ぶ体育授業の充実

事業報告書 (概要版)



香川県教育委員会

令和5年度 研究実践推進校

番	校種	学校名
1	小学校	三豊市立麻小学校
2		三豊市立下高瀬小学校
3		三豊市立財田小学校
4		高松市立川島小学校
5	高等学校	香川県立志度高等学校

令和5年度 研究推進委員会推進委員

番	所属	氏名
1	香川大学教育学部教授	米村 耕平
2	香川大学教育学部教授	坂井 聡
3	香川県小学校体育連盟代表	宮谷 恭彦
4	香川県中学校体育連盟代表	大谷 昌三
5	香川県特別支援学校校長会代表	廣瀬 尚子
6	香川県小学校教育研究体育部会研究部代表	藤井 康裕
7	香川県中学校体育連盟教科研究部代表	藤本 光
8	一般社団法人I I N E代表	田村 治仁
9	香川県教育委員会事務局義務教育課長	荻原 絢嗣
10	香川県教育委員会事務局特別支援教育課長	藤田 明
11	香川県教育委員会事務局保健体育課長	渡邊 浩司



1 本事業について

(1) 目的

通常学級の体育授業において、障害の有無にかかわらず児童生徒が共に学ぶための指導内容や指導方法等の工夫について実践研究を行い、全ての児童生徒の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現する体育の授業改善を図る。

(2) 内容

- 児童生徒の障害種別や程度、発達段階に応じて、
- ① 体育の授業改善「学習プログラムの開発」・「個に応じた指導の工夫」
 - ② 学校体育活動の工夫・改善「運動機会の確保」「個に応じた指導の工夫」を内容とする。

2 体育の授業改善「学習プログラムの開発」・「個に応じた指導の工夫」

授業づくりの考え方 (例)

- ① 児童生徒の「困り感」を見取る。
- ② その児童生徒の「困り感」に合わせた授業の「しかけ」を次の3点で考える。
 - ・「人」の工夫 (ペアやグループの配慮を行う)
 - ・「もの」の工夫 (体育で使う用具の工夫をする)
 - ・「ルール」の工夫 (ゲームのルールの工夫をする)

「投げ入れゲーム」
ゲーム(ボールゲーム)
小学校 低学年

児童の「困り感」

車いすに乗っているので、みんなと一緒にボールを投げたり、ボールをキャッチしたりできない。



授業の主な「しかけ」

<p>「もの」の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いすに乗っていても、ボールを掴みやすく、床に落ちても転がりにくいボールを使用する。 	<p>「ルール」の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットを斜めにして、自分に合った高さを選択できるようにする。
--	---

「ティーパーゲーム」
ゲーム(ベースボール型)
小学校 中学年

児童の「困り感」

- ・車いすに乗っているので、ボールを打ったり、走ったりできない。
- ・周りの友達が車いすに乗っている自分を見て、どのように思うのか不安になる。



授業の主な「しかけ」

<p>「人」の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習として、全校児童を対象とした車いすバスケットボール体験や車いすを利用しての方の講話を聞くことにより、車いす利用に対する肯定的な心情を育む。 ・車いすを利用している児童と共に体育活動をする際のルールづくりの考え方を学ぶ。 	<p>「もの」の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バットの代わりに手型ラケットを使用する。 <p>「ルール」の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベースの代わりにコーンを使用する。 ・守備の際、フープに全員集合したらアウトにする。
---	---

「バドミントン」
球技(ネット型)
高等学校 第一学年

生徒の「困り感」

車いすに乗っているので、みんなと一緒にバドミントンができない。



授業の主な「しかけ」

<p>「もの」の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技用車いすを使用する。 ・ラケットやシャトルを選択できるようにする。 	<p>「ルール」の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットの高さを100cmと155cmを選択できるようにする。
--	---

「フライングフットボール」
ゲーム(ゴール型)
小学校 中学年

児童の「困り感」

ボール操作が苦手で、ゲーム中にコート内でどのように動けば良いかわからない。



授業の主な「しかけ」

<p>「人」の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・攻撃の際、「キズナリング」を使って、友達と2人1組で攻撃をすることができるようにする。 	<p>「もの」の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビニール袋にクッション材を入れた柔らかいボールにする。 ・3通りの長さ(長い・ふつう・短い)のフラッグをチーム内で選択できるようにする。 	<p>「ルール」の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コート内にフラッグを取られないスペースとして「セーフティーゾーン」を設置する。
--	---	--

「手つなぎサッカー」
ボール運動系(ゴール型)
小学校 高学年

児童の「困り感」

- ・ボールをうまく蹴ることができない。
- ・コート内でどのように動けば良いかわからない。



授業の主な「しかけ」

<p>「人」の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・攻撃の際、「キズナリング」を使って、常時2人1組で攻撃をする。 	<p>「もの」の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールの代わりに円盤型フットホッケーを使用する。 	<p>「ルール」の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キズナリング」を使って、2人1組で攻撃できるルールにする。
--	--	---

授業実践の成果と課題について (○…成果、●…課題)

- 児童生徒の困り感を焦点化して、その困り感を解決することを目指した授業実践を行ったことにより、共に学ぶことができ、全ての児童生徒の可能性を引き出す体育の授業実践につながった。
- 授業実践前後のアンケート調査では、「練習をすれば、必ず運動(体育)が上手にできるようになるか。」という質問に対して、困り感がある児童生徒も運動を肯定的に捉えるようになった。
- 児童生徒の困り感を焦点化してルールを工夫していく中で、その運動が持つ特性が失われることがあったため、それぞれの運動領域の特性を損なわないように留意する必要がある。